



申3号SCCD計画びゅうプラザ業務運営体制の見直しに対する申し入れ 現場の声を反映させる施策とすることを強く求める!

12月18日2019年度「システムチェンジコストダウン計画」びゅうプラザの業務運営体制の見直しに対する申し入れについて団体交渉を行いました。びゅうプラザ新潟駅の(株)びゅうトラベルサービスへの移管とびゅうプラザ長岡駅の廃止について中心的に議論を行いました。

1. 今提案における、現在本部一本社間で継続議論されている『駅』の変革と新たな顧客接点創り(旅行業部門の今後の方向性)との関係を明らかにすること。
 - (組合) 今施策は『駅の変革』ありきで提案がされていると思う。長岡は閉鎖、新潟は移管となりお客さまサービス低下と働く場所がなくなることから反対である。
 - (会社) 施策ありきで進んでいる訳ではなくJR本社、VTS、支社と検討しながら進めている。顧客接点創りのイメージとして「集う場所づくり」を考えている。
 - (組合) 今後は駅の変革に基づいた施策を進めていく考えか。
 - (会社) 旅行業だけでなく、駅もそうである。変革2027に照らし施策を提案する考え。
2. びゅうプラザ新潟駅を2020年3月31日でVTSへ移管とした根拠を明らかにすること。
 - (会社) 2014年に観光流動創造イノベーションが出た時にVP運営はVTSに移管する方向性が示された。当初からVP新潟についても移管することになっていた。
 - (組合) 現在のVP新潟の社員数について標準数に対してどうなのか。
 - (会社) 標準数は34、現在社員数は20。
 - (組合) 移管以降要員数はVTSが決める。支社としてVP新潟の要員は足りている認識か。
 - (会社) 回っているとは言えないが店舗運営してもらっている。標準数割れしている認識はある。
3. びゅうプラザ長岡駅を廃止する理由を明らかにすること。
 - (会社) 今後を見据えての決定。2年間のオンライン実績は微量かもしれないが決定した。VP長岡で働く社員にも丁寧に説明した。
 - (組合) 駅の変革に振り回されての廃止とを感じる。お客さまからのニーズも絶対にある。店舗がなくなるとどのように商品を知ることができるのか。
 - (会社) 旅行サイトや宿の口コミを見てダイナミックレールパスの申し込みとなる。
 - (組合) 切符だけ売れる窓口、旅行相談も出来る窓口があることが強みではないか。オンラインだけでやることは準備がないと厳しいのではないか。
4. びゅうプラザ店舗廃止に伴い、駅営業に移行する業務は何か明らかにすること。
5. 4項目についての業務を移行するにあたっての対応策を明らかにすること。(4、5項一括議論)
 - (会社) ビジネスえきねっとのカセット交換、団体乗車券の発券など。カセット交換は年30~40件程度。2月中に勉強会の開催、マニュアル作成を現場と調整している。
 - (組合) 団券の発券方、月報の教育など長岡駅以外の駅でも教育をお願いする。
6. 施策実施に伴うサービス低下に対する考え方を明らかにすること。
 - (会社) 交通弱者に対してサービス低下の認識はある。宣伝強化によりサービスアップに繋げる。
 - (組合) サービス低下の認識があることを確認する。議論の中で「検討して行く」「調整していく」との文言が多く具体的にないことが現状である。